

ダンボールコンポストQ&A

Q1. 投入する生ごみは500gでなければいけないの？

A1. これは、あくまで、目安です。特に制限はありません。

ただ、処理能力の関係から、多く入れすぎると、分解が間に合わず、生ごみが腐ってしまう場合があるため、目安を設けているのです。

また、逆に生ごみが少ないと、活発に分解されません。

1日500g程度が一番良好に分解されるというわけです。

Q2. ダンボールを2つ準備できないのですが、だめでしょうか？

A2. ダンボールが2つなければならぬというわけではありません。

底を2重にするために手っ取り早い方法が2つ用意することであり、中にもう一枚ダンボールを敷くだけでもOKです。

また、ダンボールを重ねる理由は、水分等によりダンボールが弱くなり、万が一、底が抜けないためであります。よって、底がしっかりしたダンボールなら、大丈夫だと思います。“備えあれば憂いなし”で、念のためにダンボールを2重にするのです。

Q3. 魚の骨などを取り除いて混ぜるのは面倒なんですけど・・・。

A3. 他の生ごみと一緒に混ぜてOKです。

何回か混ぜ合わせていくうちに、分解しない骨などは、上に出てきます。

それを取り除けばいいので、最初から分ける必要はありません。

また、取り除かなくても、支障はありませんので、面倒なら、そのまま入れていてもOKです。

Q4. 毎日混ぜないといけないのですか？

A4. 毎日混ぜるのが理想ですが、2・3日、混ぜなくても支障はありません。

生ごみを入れる時だけ混ぜても堆肥化は進みます。

微生物による分解なので、できるだけ酸素を入れた方がいいのです。

ダンボールは通気性がいいので、そのままでも酸素は供給されます。

よって、1週間混ぜないから失敗!!ということはありません。

よりよく分解させるためには、混ぜるのが好ましいということです。

Q5. 手袋は必ず必要ですか？

A5. 必須ではありません。

菜園など行う際、手袋をする人と素手で行う人がいると思いますが、それと同じことです。手を汚したくない場合は、念のため手袋をしてください。

通常は、手袋をしなくても混ぜることができると思います。

Q6. 布は必ず必要ですか？

A6. 必須ではありません。

分解が弱い場合は、温度があまり上がらないため、布などで覆っておかなければハエなどが卵を産む可能性があります。

よって、念のため、布をします。

分解が活発に行われていれば、中の温度が高いことから、虫などの発生は基本的に起こりません。

Q7. 何処に設置すればいいの？

A7. ダンボールなので、水に弱いため、雨に濡れない場所に設置してください。

また、通気性の良い場所が好ましいです。

場所が確保できない場合、くん炭は、脱臭効果もあるので、キッチンの片隅やごみ箱の横などにも設置可能だと思います。

Q8. 直射日光の当たる場所でも大丈夫？

A8. 分解する場合、熱が発生するため、熱い場所や日光の当たる場所はあまり好ましくありません。

できるだけ、直射日光を避け、通気性の良い涼しい場所に設置してください。

そのような場所がない場合、まずは設置して、様子を見てから判断するのも良いでしょう。分解がされているようなら、設置可能です。

Q9. 白いカビが発生したのですが・・・大丈夫？

A9. 好気性菌で無害なので、問題ありません。

そのまま、混ぜて使用してください。

Q10. ダニが発生しました・・・大丈夫？

A10. ダニが発生した場合は、直ぐに止めて、最初からやり直す必要があります。

通常の管理をしていれば、ダニは発生しません。

分解が弱く、温度が低い状態が続いた場合、ごく稀にダニが発生します。

よって、基本的にはダニが発生することはありません。

かき混ぜることが一番の予防になります。